

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

山野中学校区	校番 42	福山市立山野小学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月27日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>地域のコロナ感染状態を考慮した地域とのコミュニケーションに取り組んでほしい。</p> <p>子ども達が卒業・閉校の意識を持って一日一日を大切に過ごせるように取り組んでほしい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>自分の考えや意見を相手に伝えることが苦手である。また、学校行事などの取組の中で、中学生との交流を行うなど、児童・生徒が協働して学んでいる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○問題発見力 ○課題解決力</p> <p>○コミュニケーション力 ○チャレンジ精神</p> <p>・確かな学力として、自ら学び続ける意欲を持った子ども</p> <p>・豊かな心として、相手を尊重し、共に高まり合う子ども</p> <p>・自律として、判断する力と責任ある行動ができる子ども</p> <p>○自ら考え、学び合う授業や行事等の取組</p> <p>○個に応じたきめ細かい丁寧な指導の徹底</p> <p>○地域等のふるさと学習の充実</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域を生かした学習を教育課程に位置付け、自ら考える授業や行事等に取り組む。また、個に応じた支援を行い、他律から自律の心を育てる。子どものやる気を高め、自己実現に向けて努力する等、地域に誇れる学校となる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>問題発見力</p>	<p>課題解決力</p>	<p>コミュニケーション力</p>	<p>チャレンジ精神</p>
<p>学校教育目標</p> <p>確かな学力と豊かな心を持ち、自らたくましく生きる子どもの育成</p>	<p>1・2年</p>	<p>身近なふしぎを見つける。</p>	<p>学習・生活を振り返る。</p>	<p>学校生活を楽しむ</p>	<p>好きなことや得意なことに取り組む。</p>
<p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <p>個に応じた指導を行い、学力の定着・向上に取り組んでいる。特に、行事等では、児童の意見を取り入れ、参画意識を高めている。また、地域の方との交流等では、主体的に活動することを目標にしている。</p> <p>同年代との関わりが少なく、幅広い人間関係づくりや表現力に課題がある。</p> <p><授業></p> <p>「新しい学びの創造」をテーマに、年間を通じて小中合同で研修会を実施し、同じ研究主題で授業改善を進めている。</p> <p>研修会では、児童が新たな課題を発見し、追究することができる内容としている。特に、児童が学びが面白い、もっと知りたいと喜びが持てる授業に向け、研鑽を深める。</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>3・4年</p>	<p>身近なふしぎを調べる。</p>	<p>学習・生活の課題解決に向け、自ら選択し、行動する。</p>	<p>進んで友だちとかわる。</p> <p>好きなことや得意なことを増やす。</p>
	<p>5・6年</p>	<p>身近なふしぎを考察する。</p>	<p>学習・生活の課題解決に向け、根拠を明らかにし行動する。</p>	<p>自分の思いや考えを友だちに伝える。</p>	<p>好きなことや得意なことを増やし、自信をつける。</p>
	<p>テーマ</p>	<p>子ども主体の新しい学びの創造 ～問題発見力・課題解決力の育成～</p>			
	<p>研究</p>	<p>内容等</p>	<p>・学習過程において、課題や気づきなど新たな発見のあるわくわくする授業を創造する。</p> <p>・児童が自らの課題解決に取り組めるように、選択、活動できる場面を授業に位置付ける。</p>		
	<p>めざす授業の姿</p>	<p>・児童は、学習計画を立案若しくは選択し、実行する。</p> <p>・教員は、児童の学びの道筋を構想し、児童の学ぶ意欲が高まる授業を作る。</p> <p>・授業は、児童にとって新たな発見があり、解決するために必要な方法が考えられる内容とする。</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山野小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
3年目	子ども主体の学びに向かう授業等を実践する	★	継続	新たな学び(発見)となる授業を実践し、子どもの学ぶ意欲を喚起する。	国社算理の単元の始めに児童と単元計画を作り、学習の進捗状況の確認も行う。	児童と主な単元の学習計画を立て、児童自らが進捗管理を行う。 (80%達成)									
2年目	ICT等を活用し、個別最適な学習を図る	★	新規	ICT等を効果的に活用し、児童が自ら学習する状況を作る。	ICTタイムを設け、児童用タブレットの活用計画と振り返りを行う。	児童と一週間分の学習支援ソフトの活用計画を作り、週末に実施状況を振り返る。 (80%達成)									
1年目	常務内容を見直し、業務改善を図る		新規	ペーパーレスを進め、作業時間の短縮し、教材研究の時間を確保する。	業務のオンライン化を進める。保護者との連絡もICT機器をメインにする。	クラスルーム等を活用し、学級通信、校内職員への説明資料をオンライン化する。 (80%達成) 1日1時間は研究時間を確保する。									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。